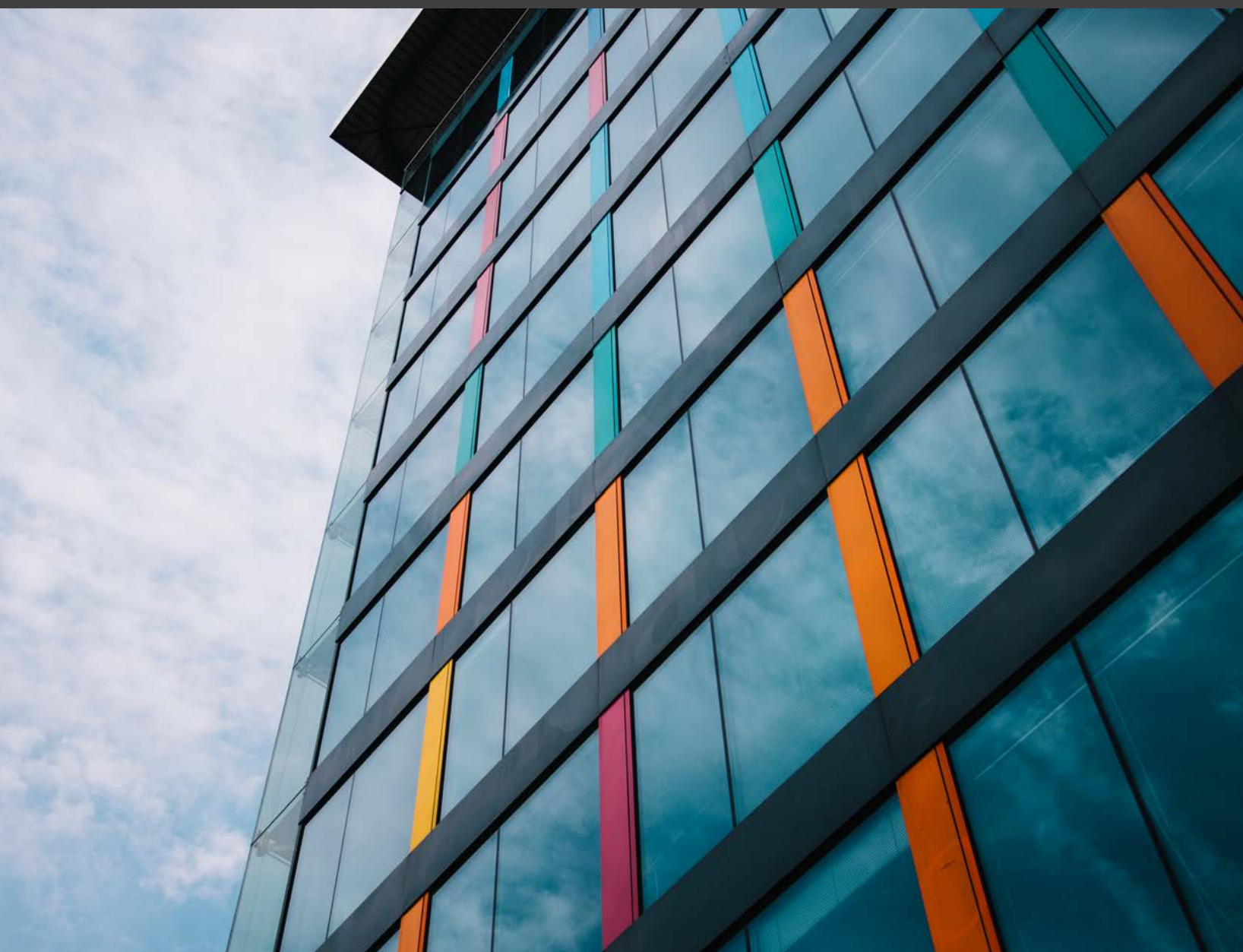


# Enterprise 11

世界で最も利用されている  
デジタルワークフォースプラットフォーム

ルールベースの人が行う作業をソフトウェアロボット、  
AIおよび先進的な分析機能で自動化



Automation Anywhere Enterpriseのアーキテクチャーは、RPAを導入していく上でのあらゆる工程においても最適化されています。ビジネスユーザーのためにデザインされたプラットフォームで煩雑さを低減し、迅速な展開と適応を可能にします。

## Enterprise11の新機能

Automation Anywhere Enterpriseはビジネスユーザーにとって最適にデザインされているとともに、開発者や管理者のための高度な機能も備えています。Botの開発者や自動化の管理者、ビジネスユーザーにとって、使いやすく直感的なインターフェイスを備えています。プラットフォームのデザインとアーキテクチャーは、迅速な導入と広範囲への展開が可能ないように、使いやすさを重視しています。

### 運用の拡張性

Automation Anywhere Enterpriseは、業界において現状、高速かつ安全に数1,000単位でBotを展開する実績のある唯一のRPAプラットフォームです。現在、65万以上のBotが稼働中で、複数の企業において数千というBotが稼働しています。本バージョンでは、多くのデジタルワークフォースを複数の地域やビジネスユニットにスケーラブルに展開することがより容易になりました。

#### ワークロードマネジメント (WLM)

変化の多いSLA（サービス品質保証契約）に対応するため、デジタルおよび人間の作業負荷を最適化し、優先順位をつけます。キューの管理システムだけでなく、WLMは利用可能な全てのリソースを最小限の切り替えコストで効率的に利用できるように設計されています。これにより管理者は事業価値に基づいてより重要なタスクを特定し、処理することが可能です。増加する需要に対応した業界初かつ唯一のオンデマンドコンピューティングリソースであるBotFarm™との統合により、WLMはビルトインのSLA Calculatorと、RPA-as-a-Service機能を提供しています。

#### Botライフサイクルマネジメント (BLM)

Botの開発ライフサイクルにおいて、ソフトウェアの開発ライフサイクル (SDLC) のベストプラクティスを適用し、企業環境において継続的に成功可能なモデルを構築してください。完全なバージョン管理とロールバック機能によって、Botを依存関係にあるBotやファイルと共に連続的にテスト、展開することができます。BLMによって、企業により定義された連続したライフサイクルステージ（開発→テスト→受け入れ→本番 (DTAP)）からBotを自由にするフレームワークが実現します。能力成熟度モデル統合 (CMMI) レベル5の証明書、サーベンス・オクスリー法 (SOX法) といった厳しいコンプライアンスにも対応可能です。

#### 高可用性 (HA) と災害対策 (DR) によるビジネス継続性

複数のロケーションにおいて、エンドツーエンドでクライアント→サーバーのHA/DRを実現することで、企業における災害対策の課題に対応します。一般的なビジネス継続性ソリューションでは、サーバーレベルでの復旧のみ対応します。Enterprise11のHA/DRでは、Botレベルから複数のロケーションまで復旧対策が可能で、企業全体であらゆるプロセスとデバイスに対応することができます。

#### クラウドに対応したアーキテクチャー

Amazon Web Services (AWS) やMicrosoft Azureといったクラウドプラットフォームにも対応しています。これらのクラウドプラットフォームにより、高い拡張性と柔軟性を実現し、大規模企業における様々な要求に対応することができます。

### 金融機関レベルのセキュリティ

堅牢なセキュリティに基づいて設計されているEnterprise11は、管理者が企業全体に適用するセキュリティポリシーを中央のコントロールポイントから、新たに設定したり、既存のポリシーを確実に適用する機能を強化しています。



数1,000レベルでBotを展開できる実績のある唯一のプラットフォーム



金融機関レベルの企業セキュリティ



中央管理機能でエンドツーエンドの可視化とコントロールを実現

### Bots

フロントオフィスおよびバックオフィスで実行し人間のふるまいを模倣してプロセスを自動化。ビジネスユーザーと管理者は、ルールベースおよびAIベースのブロックを組み合わせることで簡単にBotを作成できます。

### Bot Creator

550以上のドラッグアンドドロップで使えるコマンド、スクリーンレコーダー、ビジュアルなデザインワークフロー、統合されたAIベースのインテリジェントオートメーション機能で、ビジネスユーザーも開発ユーザーも、複雑なアプリケーションの自動化が可能です。

### Bot Runner

Botは、デスクトップ、VM、データセンター、クラウドなど様々な環境に配置可能なランタイムシステムで、アテンモード、非アテンモードで実行できます。

### Control Room

オートメーション・エンジニアのControl Roomは業界で最も先進的で、高度なセキュリティを備えたRPAコマンドセンターです。直感的に操作可能なWebベースのインターフェイスにより、管理者ユーザーは簡単かつ正確に、BotおよびBot Runnerのスケジューリング、実行、分析を管理できます。また、チームでBotの開発ライフサイクルやワークロードの管理、監査証跡、HA/DRを一元化することも可能です。

## Cybeark™との統合

Enterprise11には、Fortune100に選出される企業の半分以上を顧客リストに抱えるCyberArk™との統合が含まれています。この機能により、人間とBotの双方に対して、ユーザーの認証情報などのあらゆる重要データのセキュアかつ便利な保存ソリューションを提供します。

## Locker Managementによる進化した資格情報保管

CyberArk™のような高度なセキュリティ製品との統合に加え、Enterprise11には独自の資格情報保管機能が備え付けられています。これにより、アプリケーションに関連するあらゆるデータ（ユーザーの認証情報、アカウント番号、社会セキュリティ番号など）を自動で安全に管理することができるようになります。このような機密情報はクライアントのマシンに保存されるのではなく、AES-256とRSA-2048のアルゴリズムを用いて暗号化された上でEnterprise11内に保存されます。

## 細やかな役割ベースのアクセス管理（RBAC）

RBACを、Control Room、Bot Runner、Bot Creator、分析、資格情報保管、ワークロードマネジメント、Botライフサイクル管理、監査ログ、APIといったプラットフォームのあらゆる面に細やかに導入することにより、リソースの役割に応じて分離、隔離を行うことができます。

## 認証フレームワークのサポート

SSL、Kerberos、Microsoft NTLM、SAML 2.0 for SSO、2段階認証など、あらゆる企業レベルの認証フレームワークをサポートしております。

## データの暗号化

全ての認証情報と重要データは、保存されているデータについてはAES-256で、移動中のデータについてはTLS 1.2で暗号化されます。更にBotのコードは、AES-256スタンダードで難読化します。

自動化は最高の薬だ：SIEMENS HEALTHCAREが、エラーフリーのバイオテクノロジー分析を実現

組織紹介：  
バイオテクノロジーやヘルスケア業界における、世界でも大手のサプライヤー。130ヶ国以上で45,000以上の従業員を抱える、有名な医療ソリューション企業でもある。

課題：  
同社は、DNAやその他遺伝医学に関連する詳細なデータをできるだけ早く集めようとしていた。遺伝分析はその性質として、詳細かつ複数のオプションのレポートを必要とする。手動での分析パラメータの設定はエラーが発生しやすく、パラメータ間での相違が一つでもあればそのデータは受け入れられず、全てをやり直さなければならないという問題があった。分析パラメータの入力を自動化することにより、ソリューションは100%の信頼性を提供できることが期待された。

ソリューション：  
全ステップ毎の可視性を実現し、Siemensの生物統計学担当者にモニタリング、編集、レポート作成のアクセス権を与えつつ、全体的な自動化プロセスを導入。

結果：  
Automation Anywhereを即時実装し、専門的なツールの利用を最大化、より正確かつコスト・時間・リソースいずれについても効率的な遺伝分析を実現することに成功した。



## ガバナンス

### Control Roomによる中央管理

Control Roomは、企業のRPAオペレーションの頭脳と言っても過言ではありません。デジタルワークフォースは、Control Roomを中心として展開・スケジュール・監査・管理されます。Enterprise11ではControl Roomが徹底的に再デザインされ、直感的かつ視覚的なインターフェイスを実装、あらゆるデバイスでシームレスに利用できるようになりました。

Control Roomは、オンプレミスにもクラウド上にも展開が可能です。堅牢な実行とコンプライアンスのために、Botと依存関係にあるBotやファイルの詳細なスケジューリングと実行の管理を実現します。

Control RoomのアーキテクチャーはQoS（クオリティオブサービス）を考慮して設計されています。マイクロサービスベースのアーキテクチャーで数千のBotとピークパフォーマンス時の作業負荷の変動をサポートします。また、全ての利用可能なコンピューティングリソースを効率的に活用します。

## Bot Storeを提供-世界初のデジタルワークフォースのマーケットプレイス

ビジネスの様々な活動の自動化に役立つ、プラグアンドプレイで利用できるBotを活用して迅速なBot構築に役立ててください。Bot Storeは業界初の「すぐに実装できる」Botのマーケットプレイスです。高機能なプロセスを実行するBotを活用して、自動化プロジェクトを加速させてください。

## 企業レベルのセキュリティ：その考え方

Automation Anywhere Enterpriseのセキュリティインフラは、主に3つの柱によって成り立っています。

- ・職務分掌
- ・最小限のアクセス権限
- ・詳細まで管理できる、ロールベースのアクセス管理（RBAC）

業務を論理的に分離することで、重要な機能やマシンへの接続を制限します。

ドメインへのアクセスを最小限に制限することにより、コード開発、コードレビュー、コード実行の間を効果的に分離します。これにより部門を隔離するだけでなく、NISTの要件を満たすことにも繋がります。

詳細なRBACを包括的に適用することで、職務分掌の厳格なルールおよび最小限のアクセス権限が、各役割やドメイン、分野に適用され、企業全体に一枚岩のセキュリティを実装することが可能です。

## ビジネスおよびオペレーションのリアルタイム分析

運用上に役立つインサイト（知見）を提供する機能が搭載されており、リアルタイムですぐに活用可能な数値情報が使いやすいダッシュボードとレポートで提供されます。非常に包括的で、企業向けのRPA分析プラットフォームであるBot Insight™を搭載していることにより、予測可能なオペレーション分析ができます。Botレベルのオペレーションおよびビジネスの分析は、分かりやすいインサイト（最も高ROIであるBot、失敗リスクのあるBotなど）と共にビジュアルなダッシュボードで確認できます。

## 監査証跡

全てのユーザーイベントを包括的な監査でサポートし、SOX基準にも準拠しています。

## CITRIX自動化のためのAI SENSE

AI SenseではAIとコンピュータビジョンの力を活用し、容易かつ安全に複雑なアプリケーションをも自動化します。こうしたアプリケーションには、Citrixやその他の仮想環境におけるアプリケーションも含まれます。AI Senseは下部のビジネスアプリケーションや解像度や色の変更に対応する能力を持ち、形式やフィールドの要素の相対的位置が変更された場合でも動作します。

## その他の機能強化

- 優れたOCRツールであるABBYY、MODI、Google Tesseract、TOCRとすぐに連携して使える互換性
- ダブルバイト文字（DBCS）サポート
- 日本語コマンドの追加サポート
- Windows 10以降およびWindows 64-bitのサポート
- REST APIのサポート

## スケーラビリティを考慮した設計

優れたデザインは常に拡張性を考慮しており、オートメーション・エニウェアもその例外ではありません。

オートメーション・エニウェアは拡張性をふまえたアーキテクチャー設計により使いやすいデザインを実現すると共に、必要とされる数のBotを冗長性をもってサポートします。

このような基本設計思想により、企業はブルー・オブ・コンセプトから生産環境への展開、企業全体への拡張など、必要に応じたコンピューティング能力追加（仮想マシンの追加など）をするだけで、アーキテクチャーを再構築しなくても簡単に移行することができるようになります。



## Automation Anywhereについて

オートメーション・エニウェアは、人がアイデア、思考、フォーカスを用いて企業を強化できるように支援します。私たちは、世界で最も洗練されたデジタルワークフォースプラットフォームを提供し、ビジネスプロセスを自動化し、人を定型的な業務から解放することでよりよい仕事環境の実現を支援します。

デモをご希望の場合は、下記メールアドレスからお申し込みください。

Automation Anywhere  [www.automationanywhere.co.jp](http://www.automationanywhere.co.jp)

 @AutomationAnywh  [www.linkedin.com/company/automation-anywhere](https://www.linkedin.com/company/automation-anywhere)  [contact\\_japan@automationanywhere.com](mailto:contact_japan@automationanywhere.com)

無断複写・転載を禁じます。特に、Automation Anywhere、Automation Anywhereのロゴ、Go Be Great、BotFarm、Bot Insight、IQ Botは、米国またはその他の国あるいはその両方で認可された商標登録です。本発行物におけるその他の製品名の記載は同定目的のために用いられており、対応企業の商標登録である場合があります。